

833-6 (8)

俳諧資料カード

年代

天保の癸巳

編者  
(筆者)

安永

書名

俳諧の癡癡

備考

初巻目

(下垣内蔵)





類題十萬句集初編冬之部

冬之上

下垣內和人

十月

初丁

神無月

小六月

二丁

小春

初冬

三丁

神留主

神送

四丁

建廣忌

芭蕉忌

御命講

御取越

玄猪

丑丁

十夜

夷講

初時雨

時雨

初霜

霜

霜枯

霜柱

霜花

初雪

冬構

冬籠

炉閑

口切

寒

落葉

水菜

茶花

山茶花

歸花

十九

十五

十六

十二

十四

十七

十一



枇杷九二

枯尾花九六

枯芒九六

枯蔓

枯菊

冬木立

鷄九三

浮寐鳥九三

千鳥

柴漬

冬之中

八牛九三

枯草九四

荻枯

枯葛九七

麥蔣九七

枯野九九

鰾

鴨九七

鴛鴦九七

網代守

紅葉散

枯桺

枯葎

枯躑躅

大根引

冬野九二

冬海鼠九二

小鴨九四

鷄九四

銀杏散九五

枯芦九五

枯蓮

石路花

釣于菜九八

冬枯

水鳥

何ちむ九八

夜直鳥九八

十一月九九

袴着

吹草祭

月四一

多五十一

雪佛

栴

霰

田炉裏五十六

炭

火五十六

霜月

貞見世

御講

冬月

雪五十一

雪五十一

氷

雲五十六

火鉢

炭竈

冬至栴

冬至

子祭

里神樂四十三

風

雪吹

雪垣

鐘五十三

冬雨

埋火

炭燒五十九

冬梅

髮置四十四

子燈心

鉢四十四

雪

雪見

雪車

氷柱

巨燧

櫛

炭俵

水仙六十六



冬牡丹 六十一

葱 六十二

根深

生薑掘

暖鳥

鷹

王子酒 六十三

鷹狩

鷹野

冬之下

極月 六十四

師走

臘八

夜配

事納

藥喰

佛名會 六十五

寒入

寒雨

寒声

寒月

寒念佛 六十六

衾

紙衣 六十七

蒲團

足袋

頭巾

湯婆 六十八

敷

襪

寒菊

寒梅 六十九

冬椿 七十

冬蠅

冬山

冬日 七十一

冬田

節季候

煤掃

餅搗 七十二

歲暮 七十三

曆賣

古曆

於賣

節分

豆打

年市

年忘

年用意 七十四

年水懸

年木

年尾

年越

行年

年宵

年一夜 七十五

情年

年名殘

年別

年暮

大晦日

除夜

厄拂

掛取

岡見

春隣 七十六

春待

春近

年内春

冬題不知



類題十萬句集初編冬之部上

洞海舍涼谷編  
一具菴一具校合

十月

十月廿二日升平社

多由女

十月や蟹の形成る銀杏の葉

大梅

十月を越えたる  
暇より

文海

斗身の字の来り字や 獲る水

學井

十月不祔子丑禘文唱凡云

芦花

十月やまなみ士の新ふるま

二  
位

十月廿一日迄を以て終る所の第一集

一



神無月

十月の白を寄るとは礼を  
十月や 人の橋をぬり何處  
十月や 磯原の音をきき  
十月や 木橋の木の影を  
十月の夜は月をくさ小瀬が  
十月は入るの外市はつ四  
十月や 祇園の月の影を  
神をくさくさくさの影を  
細くはねねねねねねね  
神をの花をくさくさくさ  
ゆくと月をくさくさくさ

江戸

松 文 川 文 葛 松 蕨 丘 壺 平 多 子 母 芭 角 文 廣 依 吟 一 盤

小六月

小春

何のあはれ橋をくさくさ  
舊代はなる落穂や小六月  
手をくさくさくさくさ  
あはれくさくさくさくさ  
板のあはれくさくさくさ  
百様の雲をくさくさくさ  
そよ風はくさくさくさくさ  
一とくさくさくさくさ  
種はくさくさくさくさ  
つゆの村をくさくさくさ  
秋はくさくさくさくさ

古 翠 五 魂 之 重 子 路 双 二 白 起 雁 美 薪 水 芭 角 友 五 玄 翠



小六日

あるの草鞋を喰ふ小春の  
清きく桐より見えん小春の  
桐陽上陽をのく小春の  
あまの目もえん小春の夕日  
石臼の月も切き小春の  
年尚上陽の白小春の  
うき龍の近き通る小春の  
宋よりくちられ小春の  
庭路へ斗く小春の  
何れの小春の  
小春の板敷く小春の

小春 今 不着 尚古 今 文光 古 旭 川 旭

初冬

清きく小春の  
桐のより見えん小春の  
桐陽上陽をのく小春の  
あまの目もえん小春の夕日  
石臼の月も切き小春の  
年尚上陽の白小春の  
うき龍の近き通る小春の  
宋よりくちられ小春の  
庭路へ斗く小春の  
何れの小春の  
小春の板敷く小春の

小春 今 不着 尚古 今 文光 古 旭 川 旭



神留主

初より飛つて来る鳥の山  
初より飛つて来る小百姓  
鳥の飛つて来る神のうん  
雲の飛つて来る神のうん  
雲の飛つて来る神のうん  
雲の飛つて来る神のうん  
雲の飛つて来る神のうん  
雲の飛つて来る神のうん  
雲の飛つて来る神のうん  
雲の飛つて来る神のうん

飛 雲  
在 之  
鳥 之  
雲 之  
雲 之  
雲 之  
雲 之  
雲 之  
雲 之  
雲 之

神送

建之忌

芭蕉忌

神より飛つて来る鳥の山  
初より飛つて来る小百姓  
鳥の飛つて来る神のうん  
雲の飛つて来る神のうん  
雲の飛つて来る神のうん  
雲の飛つて来る神のうん  
雲の飛つて来る神のうん  
雲の飛つて来る神のうん  
雲の飛つて来る神のうん  
雲の飛つて来る神のうん

飛 雲  
在 之  
鳥 之  
雲 之  
雲 之  
雲 之  
雲 之  
雲 之  
雲 之  
雲 之







あるの事なりてゆく十ねり  
耳より十ねの証や娘号も  
素好子とよひの安る十ねり  
多分後と暇とる十ねり  
高仙ゆけ十ねの形の種  
清もまゝ重なる十ねり  
そんもかゝる十ねり  
つきの能事切る十ねり  
唐人多れち能ての十ねり  
十ねり活気満り十ねり  
ある鼻とまゝの十ねり

萬江  
尺葉  
吟霞  
避冰  
月峴  
史子  
杜序  
栗笑  
玉葉  
玄子

夷講

あるの事なりてゆく十ねり  
佐高と高ねり十ねり  
本心切く重なる十ねり  
炭焼く十ねりの人  
板付も板も白く十ねり  
撥も人押も十ねり  
床の男も女も十ねり  
夷後接も十ねり  
執事や皮も十ねり  
一重なる白も十ねり  
羽織の白も十ねり

夷後  
一南  
虎珍  
常星  
震雲  
斗圓  
古翠  
雅花  
不曲  
遠原



多し牡丹枝うゝさひも  
重屏の李の白も衣と絶る  
跡より松の房廣く一衣  
中より日簾拂く怪子  
簾の垂る後宮中又次  
花をくゝ思ふを思ふ  
在りて草花の影を  
何れも解けぬも衣と  
秋より秋の衣と衣と  
舟より櫓も物も衣と  
籬より籬も衣と衣と

馬  
雨  
舟  
舟  
舟  
舟  
舟  
舟  
舟  
舟

初時雨

絶了の切は  
詠ひの愛も衣と衣と  
川より衣と衣と衣と  
舟より衣と衣と衣と  
初より衣と衣と衣と  
舟より衣と衣と衣と  
初より衣と衣と衣と  
舟より衣と衣と衣と  
初より衣と衣と衣と  
舟より衣と衣と衣と

川  
香  
衣  
衣  
衣  
衣  
衣  
衣  
衣  
衣







只今又時をまはし居る我  
 面をくちくちと来しれり  
 去るや稍も去るぬ 顔  
 相下れ相くくく時を  
 相の生死をくくく時を  
 我々月をくくく時を  
 幕の来や時をの忘れ 咲  
 相をくくくくくくく  
 三日くくく時を 常の  
 一時をくくく 井の光  
 旅の端くくく時をを忘る

赤くもや かくもはるぬの  
 時よりや 欲より低きその  
 答のそとに 床より 今も  
 赤くもや 時より 杭二本  
 杭二本 床より 今も  
 赤くもや 時より 杭二本  
 杭二本 床より 今も



[illegible][illegible]



物喰ふ事あるは時雨の如くも  
 橋一本は時雨の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも

清和  
 栗溪  
 全  
 一之  
 孝井  
 昭眉  
 素有  
 唐平  
 竹林  
 南山  
 松秀

新唐の酒物屋に  
 毎日此は業の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも  
 雲の如くも時雨の如くも

竹茶  
 芦月  
 木公  
 丈二  
 一南  
 全  
 林和  
 正令  
 名村  
 玄  
 全







家什  
字松  
西松  
葛松  
蕉丘  
万里  
鼎湖  
一露  
一南  
柳巢

床よりしるす。雲をけり懸念はなぬ。  
さうけー地はまのきー。雲の空  
雲よりや世何内と車とめ  
夢回人のふよ。雲あゝ吐く能  
此雲より病なり。名刺の橋の上  
云々得て人をさへ。子に雲  
雲の若や。かゝる新衣をたね  
新しや。雲より春のあつち  
雲の氣易く。ある田舎が  
かゞごと。雲の影や雪の御  
雲れや鳥の音。久ばん木梨

第一 鳳樓臺 岩半下 原野榮 相  
南 岳 海 棧 山 谷 巢 雨



霜柱

霜花  
初雪

霜柱やけしきも月さる美の隅  
畏くけくきく物や霜柱  
霜柱やけしきも月さる美の隅  
霜柱やけしきも月さる美の隅  
霜柱やけしきも月さる美の隅  
霜柱やけしきも月さる美の隅  
霜柱やけしきも月さる美の隅  
霜柱やけしきも月さる美の隅  
霜柱やけしきも月さる美の隅  
霜柱やけしきも月さる美の隅

甲斐

松海  
文俤  
米牙  
古翠  
旭丘  
羽人  
蒼雨  
松秀  
雨芳

冬

霜柱やけしきも月さる美の隅  
畏くけくきく物や霜柱  
霜柱やけしきも月さる美の隅  
霜柱やけしきも月さる美の隅  
霜柱やけしきも月さる美の隅  
霜柱やけしきも月さる美の隅  
霜柱やけしきも月さる美の隅  
霜柱やけしきも月さる美の隅  
霜柱やけしきも月さる美の隅  
霜柱やけしきも月さる美の隅

伯文  
古翠  
一惠  
竹里  
風毛  
竹了  
夕山  
雨夕  
霜雪  
半玉



冬構

初雪や梅落はるる且那さ  
 ちの雪や梅落はるる且那さ  
 ちの雪や梅落はるる且那さ  
 仕やうとあふくさうを構  
 浮山は梅を成規をさる  
 雪構をさるる梅や北碓  
 秋利のさるる梅や北碓  
 梅も梅も梅も梅も梅も  
 梅も梅も梅も梅も梅も  
 梅も梅も梅も梅も梅も

陳沙 氏姓 自雲 古翠 厚雲 梅海 涼谷 高安 全 素如 太梅

冬簞

焚火の雪をくく人々  
 自代も雪をくく人々  
 焚火の雪をくく人々  
 焚火の雪をくく人々  
 焚火の雪をくく人々  
 焚火の雪をくく人々  
 焚火の雪をくく人々  
 焚火の雪をくく人々  
 焚火の雪をくく人々  
 焚火の雪をくく人々

一陽 自況 栗笑 相雨 英山 初雪 五雲 荷堂 玉和 羽人 棟







新緑の灯をねくきと針の元  
 面白き夢を結ぶぬきぬれ  
 木林のまはつくぬきぬれ  
 丁寧あひよき軍をぬきぬれ  
 えきぬきぬれの林の人のあり  
 は光くぬきぬれのまきぬきぬれ  
 月あふきぬれの白雲のまきぬれ  
 竹中笑顔をぬきぬれのまきぬれ  
 行旅の道なきぬきぬれのまきぬれ  
 夢見るまきぬれのまきぬれ  
 幼童のまきぬれのまきぬれ

耕雪  
 在来  
 羽人  
 葛松  
 蕙丘  
 不曲  
 長産  
 雨降  
 子之  
 少之  
 一甫

夢見るまきぬれのまきぬれ  
 幼童のまきぬれのまきぬれ  
 竹中笑顔をぬきぬれのまきぬれ  
 行旅の道なきぬきぬれのまきぬれ  
 夢見るまきぬれのまきぬれ  
 幼童のまきぬれのまきぬれ  
 竹中笑顔をぬきぬれのまきぬれ  
 行旅の道なきぬきぬれのまきぬれ  
 夢見るまきぬれのまきぬれ  
 幼童のまきぬれのまきぬれ

雪谷  
 信南  
 文在  
 栢樹  
 杉自  
 碧浦  
 原前  
 夕山  
 芦花  
 如芝  
 夕山



落葉

餘壽もぬる如 柳の葉も那  
 葉の房に 降りてくる如きや  
 身を結ぐ 山をえりて 花をさ  
 けり 柳の葉を 戸の邊に 出る 葉を 乳  
 灯を 見せし 花子を 撫さる 葉を  
 葉の房も 葉を 一 枝も 曲り 花  
 乳の乳を 葉を 一 門の 葉を 葉  
 葉を 一 門の 葉を 葉を 葉  
 葉の 葉を 葉を 葉を 葉  
 戸の 葉を 葉を 葉を 葉  
 松の 葉を 葉を 葉を 葉

葉月  
 花雪  
 氏棟  
 五峴  
 今  
 古陸  
 羽白  
 花古  
 棣々  
 二晶

落葉も 葉を 葉を 葉を 葉  
 葉の 葉を 葉を 葉を 葉  
 葉の 葉を 葉を 葉を 葉  
 葉の 葉を 葉を 葉を 葉  
 葉の 葉を 葉を 葉を 葉  
 葉の 葉を 葉を 葉を 葉  
 葉の 葉を 葉を 葉を 葉  
 葉の 葉を 葉を 葉を 葉  
 葉の 葉を 葉を 葉を 葉  
 葉の 葉を 葉を 葉を 葉

落葉

不由  
 永  
 葉手  
 雨  
 葉山  
 花  
 花  
 花  
 花  
 花











茶花

山茶花

山茶花は冬に咲く。木の葉は緑  
 葉の裏は白の枝は赤い。山茶花は  
 葉の裏は白の枝は赤い。山茶花は  
 葉の裏は白の枝は赤い。山茶花は  
 葉の裏は白の枝は赤い。山茶花は  
 葉の裏は白の枝は赤い。山茶花は  
 葉の裏は白の枝は赤い。山茶花は  
 葉の裏は白の枝は赤い。山茶花は

松舎  
 三丁  
 鼎湖  
 多子  
 丁  
 四  
 稻  
 丈二  
 素  
 雨  
 多子

歸花

山茶花は冬に咲く。木の葉は緑  
 葉の裏は白の枝は赤い。山茶花は  
 葉の裏は白の枝は赤い。山茶花は  
 葉の裏は白の枝は赤い。山茶花は  
 葉の裏は白の枝は赤い。山茶花は  
 葉の裏は白の枝は赤い。山茶花は  
 葉の裏は白の枝は赤い。山茶花は  
 葉の裏は白の枝は赤い。山茶花は

雨明  
 無人  
 大費  
 子  
 荷了  
 芦帆  
 一  
 去  
 昔  
 桃  
 多子



世路より花より草より梅より  
 老花の法より笑ひや梅より  
 花の心より花を折るより花  
 云出より花をるを折るを  
 而く山や花と並ぶより花  
 梅の花の傍を眺むや梅より  
 梅より花より花より花より  
 咲くより花より花より梅より  
 梅より花より花より花より  
 花より花より花より花より  
 下路より花より花より花より

名依 今 乙 水  
 江戸 一 甫  
 尺 葉  
 氏 氏  
 米 牙  
 素 考  
 丁 考

日の中より花より草より梅より  
 梅より花より花より花より  
 花より花より花より花より  
 花より花より花より花より  
 花より花より花より花より  
 花より花より花より花より  
 花より花より花より花より  
 花より花より花より花より

一 冬  
 一 梅  
 子 珠  
 四 所  
 素 考  
 廣 考  
 栗 笑  
 山 笑  
 向 女  
 芦 帆







銀杏散

枯尾花

小豆もや分りもあつてあつて  
 土着も一つもあつてあつて  
 代士も枯尾もあつてあつて  
 梅もよひもあつてあつて  
 銀杏もあつてあつて  
 一軒もあつてあつて  
 一軒もあつてあつて  
 小豆もあつてあつて  
 一軒も枯尾もあつて  
 一軒も枯尾もあつて  
 一軒も枯尾もあつて  
 一軒も枯尾もあつて

大 名 久 橋 木 大 丁 一 一 一  
 壺 付 藏 海 費 知 具 橋 蓋

枯尾花

大豆もや分りもあつてあつて  
 土着も一つもあつてあつて  
 代士も枯尾もあつてあつて  
 梅もよひもあつてあつて  
 銀杏もあつてあつて  
 一軒もあつてあつて  
 一軒もあつてあつて  
 小豆もあつてあつて  
 一軒も枯尾もあつて  
 一軒も枯尾もあつて  
 一軒も枯尾もあつて  
 一軒も枯尾もあつて

大 名 久 橋 木 大 丁 一 一 一  
 壺 付 藏 海 費 知 具 橋 蓋



枯柳

枯柳

夢枯く礎くゆき古柳く幸  
 枯中や夜の夢也新の夕  
 夜のおも夢く先く枯かき星  
 枯中や市あくるゆるあひの葉  
 うれ夢よ味喰やくまの白ひが  
 うき世の中よ日は流るる如  
 ちあくる夢の枯くる境う形  
 枯中や鶴のおせ蛇の衣  
 枯易きをのへる柳う角  
 うき柳川二よりよみきき  
 出く有く板あくるや枯柳

玉和之  
 柳中  
 文海  
 玄掌  
 唐永  
 五峴  
 全  
 全  
 赤薔  
 文光  
 虎来

枯柳

柳枯く、翠方あけやうと貝入ぬ  
 誘ふふふとくしう凡枯柳  
 新誘ふ陽くあさうやれ柳  
 柳くをく、万近ま町の燈く如  
 屋根青のふまかき柳くを  
 客傍の看あうとせぬれ柳  
 うき柳又像きくくくくく  
 外き柳き根の張てあう枯柳  
 ち新くおのれ枯く枯柳  
 枯柳舟うく柳る炭の如  
 うき夢よとくや海青誘の青

如仙  
 藤雨  
 篠山  
 多と安  
 十翁  
 寸石  
 佳美  
 丈二  
 尚古  
 青峰  
 夢平



茅枯くくく風吹く  
く乳着の即ち草や枯の草  
枯河やあききききき  
く枯草よ一ききききき  
枯草よ乃にききききき  
くきききの根よききき  
枯草やききききき  
くれ河に風もあききき  
枯草の枯草よききき  
くき草やききききき  
茅枯ぬききききき

橘海 古翠 魚本 換翠 多よ女 文富 雪也 杏園 厚登 桂葉女 後陽

枯 芒

枯河やききききき  
くれ草やききききき  
くれ草の草をききき  
而よききききき  
換ききききき  
二部ききききき  
枯草よききききき  
虎の草風もききき  
くの草もききききき  
枯蓮やききききき  
在りききききき

冬

常盤 東川 其美 一甫

枯 蔴

枯 葎

枯 蓮

枯 蔓

枯河やききききき  
くれ草やききききき  
くれ草の草をききき  
而よききききき  
換ききききき  
二部ききききき  
枯草よききききき  
虎の草風もききき  
くの草もききききき  
枯蓮やききききき  
在りききききき

橘海 鼎湖 芦宣 菜野



枯  
葛

枯躑躅

石落花

雪の出て来られたるぬ枯れ  
枯れや小葉をさうも一ちり  
ありきと云ふの雲や枯れし  
なきれど日影あつても花の  
忘れはよあるを思ひの日日  
あつて老れた心なる花の  
花の落ちはなほ花の香  
いふ真ふ名の何れにも不  
なりと云ふ先へ枯れたる  
花の香の風を来まで枯れ  
花の香の風を来まで枯れ

柔翰 吟霞 夢白 雨芳 子強 戈山 帝聲 樂水 雄龍 曷旦

枯菊

麥蒔

菊枝一煙をくちや下駄の底  
 枯きくや乾きくく申る廣の博  
 妻落や世路の玉川一跨  
 妻落くくも先きは日待れ  
 妻落の席に整はる花が  
 妻落はあや一の古馬  
 妻落ふや折ぬ形の乾きく  
 山の月もあすく月暮れ  
 四五軒の妻落烟を焚くとき  
 妻落や鳥一つ歌ふとき来  
 日々西へ行く老や妻落

萬里樓臺素出高安岳殊唐年柏松陳谷謝堂二丘不暑



大根曳

黒松屋も高き松蔭下  
 生やまきより所より大根引  
 机横く下繋きより大根引  
 植枝より所より大根引  
 細中や大根横きより鳥帽子  
 中より所より大根引  
 村より所より大根引  
 家より十繋きより大根引  
 船中の日く所より大根引  
 手近より所より大根引  
 仲風より所より大根引

一 無 人  
 一 南  
 一 才 北  
 一 節 之  
 一 今  
 一 和 彦  
 一 雅  
 一 樓

釣子菜

船中を結きより大根曳  
 婦より所より大根引  
 二本より所より大根引  
 二枝より所より大根引  
 後向より所より大根引  
 ちより所より大根引  
 虫の所より大根引  
 引挽きより大根引  
 以より所より大根引  
 と所より所より大根引  
 飛舟より所より大根引

骨 兄  
 夕 山  
 松 彦  
 左 彦  
 吟 彦  
 一 甫  
 五 呪  
 丁 吉  
 陶 烟  
 松 索  
 柳 亭











白鷺の足跡を尋ねて枯草の  
梢を揺る枝を揺る二匹の  
水鳥御も交る枯草のそとを  
ぬぐるのふくゆるれをうけ  
うけつゝや枝の隙をうける  
山依の枝細く交る枝をうけ  
枝の枝をうける枯草のれ  
赤い葉をうける枝をうける  
舟をうける枝をうける  
葉をうける枝の梢へ  
出産する葉をうける枯草の

永年 古寺 多よ女 市席 三層 文海 風毛 古陸 菊居 菊月 菊乙

碧い葉を揺る一日く

耕安

赤い葉を揺る一日く

一之

水鳥のふくゆるれをうける

市宜

枝を揺る枝をうける

舊堂

山形の子を揺る枝をうける

一甫

葉を揺る枝をうける

名村

葉を揺る枝をうける

素心

葉を揺る枝をうける

夢雨

葉を揺る枝をうける

五水

葉を揺る枝をうける

菊丸

葉を揺る枝をうける

范父







石松く、傍りもさうし、松の夏  
 母の事、蓋もさうなれん松の付  
 松一交二交月と人を松の心  
 松くさく、さうし、さく、松さう  
 松く、ん、松の、節の、り、内、  
 加、松、川、の、さ、さ、さ、松、の、心  
 松、も、さ、さ、さ、さ、さ、松、く、さ、  
 松、付、や、さ、さ、さ、さ、さ、松、さ、  
 松、の、味、を、さ、さ、さ、さ、さ、松、  
 側、く、も、松、く、さ、さ、さ、さ、さ、  
 松、付、や、さ、さ、さ、さ、さ、松、

一 雅  
 夕 山  
 寄 家  
 寄 付  
 父 鬼  
 巨 壺  
 松 舎  
 川 史  
 ち 交  
 葉 新  
 葉 葉

生海鼠

松付、さ、さ、松、さ、さ、さ、内、う、松  
 一、定、の、松、を、さ、さ、さ、さ、人、松  
 松、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、松、  
 人、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、松、  
 生、海、鼠、さ、さ、さ、さ、さ、松、  
 三、月、の、松、さ、さ、さ、生、海、鼠、  
 冬、さ、さ、さ、さ、さ、生、海、鼠、  
 春、さ、さ、さ、さ、さ、生、海、鼠、  
 生、海、鼠、さ、さ、さ、さ、さ、  
 冬、さ、さ、さ、さ、さ、日、松、  
 冬、さ、さ、さ、さ、さ、松、

友 之  
 芦 帆  
 一 竹  
 芭 角  
 松 常  
 有 水  
 惟 学  
 汀 尤  
 素 志  
 節 之  
 青 峰

水鳥



有る此華んとて居るや岸の上  
 有るや月を指さる向は岸  
 有るや片雲をく月のある  
 有るのやうなまをく岸より  
 有るのやうな月をく岸より  
 有るのやうな月をく岸より  
 有るのやうな月をく岸より  
 有るのやうな月をく岸より  
 有るのやうな月をく岸より

吳人  
 有水  
 子之  
 丁如  
 丁如  
 丁如  
 丁如  
 丁如  
 丁如

浮寝鳥

鴨

有る上 新の海くや岸の上  
 有るのまをく月をく岸より  
 有るのまをく月をく岸より  
 有るのまをく月をく岸より  
 有るのまをく月をく岸より  
 有るのまをく月をく岸より  
 有るのまをく月をく岸より  
 有るのまをく月をく岸より

芦帆  
 尚古  
 市席  
 踏草  
 丁如  
 文光  
 如仙  
 万里  
 白明  
 陽湖



鴨をうんてんや池の軒  
 鴨あやう田子揚る音のり  
 鴨の来も音の流るや庭の池  
 星をうや池おらん鴨の音  
 うもひや秋の聲物をし様を  
 一概に日の出る鴨の音を  
 鴨の音やあやうけうる音  
 蒼の屋北窓の鴨の羽音  
 鴨の音や池の音を五十万  
 鴨の音や世話しく来ぬ鴨の音  
 鴨の音やあやうや鴨の音

氷谷 一南  
 太極 五  
 五 五  
 五 五  
 五 五  
 五 五  
 五 五  
 五 五  
 五 五  
 五 五  
 五 五

押合るうんてんや池の軒  
 鴨をうんてんや池の軒  
 鴨の来も音の流るや庭の池  
 星をうや池おらん鴨の音  
 うもひや秋の聲物をし様を  
 一概に日の出る鴨の音を  
 鴨の音やあやうけうる音  
 蒼の屋北窓の鴨の羽音  
 鴨の音や池の音を五十万  
 鴨の音や世話しく来ぬ鴨の音  
 鴨の音やあやうや鴨の音

氷谷 一南  
 太極 五  
 五 五  
 五 五  
 五 五  
 五 五  
 五 五  
 五 五  
 五 五  
 五 五  
 五 五



小鴨

あちり  
千鳥

一羽 鳶より飛ぶ小鴨 小鴨 小鴨  
月より遠く 飛ぶ小鴨 小鴨 小鴨  
水に泳ぐ 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
何れも 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
鴨 鳶の如く 飛ぶ小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨

双之 水 一 山 伯 松 杜 栗 芦  
之 水 一 山 伯 松 杜 栗 芦

小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨  
小鴨 小鴨 小鴨 小鴨 小鴨

全 机 一 雨 稻 石 菊 西 高 文 全  
全 机 一 雨 稻 石 菊 西 高 文 全



上松

星風や利田と高浦の夜も  
 官上とて暮るくすくす松も  
 有木の細やちねく鳴ちり  
 灯を菊のしほ先のちりり  
 若やうけちねくも結も  
 月張の月の一々鳴り子  
 鳴止せよ松の夜もちりり  
 灯ともきぬ夜もちりり  
 空山の月を限し啼ちりり  
 松風も夜を限し啼ちりり  
 子も鳴松の一々くのんく

去所  
 五峴  
 大槌  
 去  
 市席  
 甫自  
 菊堂  
 榎海  
 竹岫  
 警平  
 水

星の光る高浦の夜も  
 何となく松も  
 官舟の細のちりり  
 井はよちりり  
 山風も夜も  
 小松も夜も  
 空山の月を限し啼ちりり  
 松風も夜を限し啼ちりり  
 子も鳴松の一々くのんく

宗邦  
 李朗  
 元陸  
 川走  
 長春  
 木目  
 榮雅  
 大梅  
 榮民  
 雅周  
 吉風



板屋やちやちやの風をたふす  
以荒の風と月夜や鳴る子  
絹川や二つにわたり鳴る  
衣ひききききききききき  
民河のきききききききき  
うんときききききききき  
米穀のきききききききき  
紫舟のきききききききき  
けのききききききききき  
糸角屋はききききききき  
井戸端のききききききき

其傍 一面 月夜 初種 寄居 史子 南陽 可傳 杜年 涼谷 全

鷺

鷺

吹くけり雪の雫や鳴る子  
岩よりきききききききき  
網をきききききききき  
藤のきききききききき  
新羽屋のききききききき  
松のきききききききき  
鷺のきききききききき  
きききききききききき  
きききききききききき  
井のきききききききき  
網をきききききききき

四葉 画本 木保 石就 榮新 藤雨 鷺浦 素花 一具 永水 全



恒福を市の雲にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ

横海 桑 乙 全 川 旭 権 鼎 所 愚 桑

夜與曳  
 柴漬

網代守

体初る雲をそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ  
 雲の影を山にそそぐ

木公 乙 一 市 一 具 竹 水 桑 不 桑



類題十萬句集初編冬之部上終

類題十萬句集初編冬之部中

洞海舍凉谷編

一具菴一具校合

十二月

山里や十一月孔替古笛

多よ女

霜月

霜月や旭の雀の控長

兼故

青池

霜月や星の光の如く

一南

霜月や振子や夜半の株

万里

霜月や曲里の如く

布席

霜月と只傳の如く

一様

木の如く

磐浦

霜月や旭の如く

薪水







吹草祭  
御講

御講

里神樂

鉞  
卞

花傳ふぬや草花の春を  
 友とめく旅やは禪は徳を  
 思歸やは禪日和の梅の花  
 役刻の操もぬより主神楽  
 笛吹の一人宵折 神楽不  
 生涯を春ぬけうと神折  
 明星をばはるうと神とふ  
 空の桜のうととととととと  
 春後た待つふと春ぬ神とふ  
 後通つた其子の親を神折  
 暖やあまうと春の神とふ

學井 一皇 多女 乐有 松和 川長 不曲 易年 多女 帝席

[illegible]

一久藏  
松檜  
湖亭  
宋司  
南女  
友之  
左學  
寬里







その月をみるる雲を降る  
 松平 松とてあやふその月  
 火のまねきや伏やあやふ  
 赤糸のひらくやあやふ  
 川 依る裸ちしあやふ  
 谷道の曲りくやあやふ  
 その月片切くはあやふ  
 物子あやふ本屋道あやふ  
 池丁の貸借もあやふ  
 その月片あやふ戸外  
 山を孔捕るくあやふ

筆佐

夕山 素白 戴屋 片茶 一具 文光 名村 一甫 五 屹 今 大棋

木枯

著るまはあやふあやふ  
 風や月の片あやふの上  
 本枯のやあやふあやふ  
 あやふやあやふあやふ  
 風を破るくやあやふ  
 本枯のやあやふあやふ  
 あやふやあやふあやふ  
 風やあやふあやふ  
 本枯のやあやふあやふ  
 風の一二を休むあやふ  
 本枯のやあやふあやふ

素白 雨行 乐水 李朗 文鬼 長秀 陶烟 量山 不流 古家 粗年



あゝ〜これより華や大雪の  
 晴るも木枯の以とありが  
 風やふ降く落るる雪の足  
 木枯や春の庭に花の出  
 風や新緑の消え残のあり  
 身並く木枯の心暮の工夫  
 あゝ〜これより雪の降る  
 木枯や春の庭に花の出  
 風や新緑の消え残のあり  
 身並く木枯の心暮の工夫  
 あゝ〜これより雪の降る

氣流  
 今  
 大貴  
 唐年  
 一具  
 文海  
 碧浦  
 南く  
 新水  
 呂水

雪

木枯よ春の庭に花の出  
 風や新緑の消え残のあり  
 身並く木枯の心暮の工夫  
 あゝ〜これより雪の降る  
 木枯や春の庭に花の出  
 風や新緑の消え残のあり  
 身並く木枯の心暮の工夫  
 あゝ〜これより雪の降る

山笑  
 素白  
 古川  
 竹枝  
 言花人  
 松竹  
 吟鹿  
 五布  
 二丘  
 大梅  
 一笠



物々生々飛ぶ。雪の意  
ありもやう。十日ちあふ。松の雪  
木の雪。一枚片々。落さう。  
枝をれん。雪。さう。又。雪。も。雪。  
又。ほも。積る。を。揚。ぐ。の。雪。  
隠。密。も。雪。さ。あ。う。新。粉。  
新。代。より。風。情。も。是。や。雪。の。粉。  
雪。雪。の。戸。子。積。る。月。日。が。  
松。の。雪。の。雪。さ。あ。う。日の。積。る。  
雪。雪。の。雪。さ。あ。う。日の。積。る。  
雪。雪。の。雪。さ。あ。う。日の。積。る。







柳坡松

昨の雪鏡——（修らぬ所あり）  
 一、ゆや六十餘年。雪ふふ  
 雪ふ折るやお切ぬ基は均し雲  
 手をもめてあつゝとて秋の雪  
 雪降やふ入る。物のはり  
 雪降や上る。中め神あり  
 より向く此境もほし雪の屋根  
 雪ちるや庭より小松の枝まわ  
 持合へく。芦折きうけける雪  
 屋根の雪をうねりぬ戸口か  
 湯の煮えもあつゝぬ雪の窓あり

松 抱 琴 今 四 第 多 文 為  
 其 巢 家 琴 浦 明 谷 女 海 孝

うけんかくゆきほろや雪の宿  
みよの控はあや雪のくれ  
人知るう雪の鶴うぬ雪の雪  
雪の屋根より低いまあり亀  
田舎の雪蕎麦う雪の雪  
袖の雪附く折込戸口うれ  
月雪の雪うすおを障垣む  
障止く月を越さう雪の松  
一新の明倉う雪の朝  
秋の雪送るうあうう  
雪もあけやうし雪降山ふか

白起 何年 荷了 耕安 松月 松月 吳洋 芦宜 木架 全 桂香



















氷る新や夢籠のなる様の上  
 暖のうらあつもあま氷うね  
 氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家

大梅 香家 羽人 氷 不 吟 一  
 一 蕙

氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家  
 氷る新や新よりある谷の家

依 吟 一 蕙  
 小 園 然 崇 雪 謝 在 柳 文 凉 乃











冬雨

と我らもやうな雨は只の雪より  
寒くもやうな雪は只の雨より  
雨の市のあけは雨の寒くも  
雨の雨のやうな雨の寒くも  
雨の雨のやうな雨の寒くも  
雨の雨のやうな雨の寒くも  
雨の雨のやうな雨の寒くも  
雨の雨のやうな雨の寒くも  
雨の雨のやうな雨の寒くも  
雨の雨のやうな雨の寒くも

一 雪  
二 雨  
三 雪  
四 雨  
五 雪  
六 雨  
七 雪  
八 雨  
九 雪  
十 雨

巨燧

物とてはたやうな雨は只の雪より  
寒くもやうな雪は只の雨より  
雨の市のあけは雨の寒くも  
雨の雨のやうな雨の寒くも  
雨の雨のやうな雨の寒くも  
雨の雨のやうな雨の寒くも  
雨の雨のやうな雨の寒くも  
雨の雨のやうな雨の寒くも  
雨の雨のやうな雨の寒くも  
雨の雨のやうな雨の寒くも

一 雪  
二 雨  
三 雪  
四 雨  
五 雪  
六 雨  
七 雪  
八 雨  
九 雪  
十 雨











有りて来りて授出に或や櫓の  
 佛人の如く或は此の櫓を以  
 来りて或は此の櫓を以  
 佛人を以て櫓と云ふ事  
 有りて或は此の櫓を以  
 佛人を以て櫓と云ふ事  
 有りて或は此の櫓を以  
 佛人を以て櫓と云ふ事

多の女  
 野棠  
 一具  
 何年  
 一寄  
 甫心  
 友之  
 寛里  
 五岬  
 全  
 来也

## 炭

炭を授出に或は此の櫓を以  
 佛人の如く或は此の櫓を以  
 来りて或は此の櫓を以  
 佛人を以て櫓と云ふ事  
 有りて或は此の櫓を以  
 佛人を以て櫓と云ふ事  
 有りて或は此の櫓を以  
 佛人を以て櫓と云ふ事

節之  
 耕  
 羽人  
 二晶  
 永号  
 全  
 確嶺  
 一具  
 小園  
 子路  
 斗園







## 冬至梅

生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅

一具  
 生果  
 熟果  
 荷乙  
 杏園  
 万所人  
 四第  
 十第  
 風毛  
 永水  
 孫英

## 冬梅

生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅  
 生をんをんをん梅也相中梅

孫山  
 唯光  
 尺第  
 文呂  
 孫平  
 苧花  
 丁知  
 白起  
 昭眉  
 芭角  
 秋登







ふ仙や 浅木移し 雲う家  
ふ仙は 明くも 和尙が  
ふ仙や 枯くも 菊も 持て せん  
ふ仙や 餅より 腐く 龍の 舌  
水仙や 樂ひも 夢 夢移れ  
一隅より 第も 入風 あり 仙や  
ふ仙や 障子より 移る 影 花  
ふ仙も 尺より 移る 夢 夢移れ  
ふ仙や 夢 夢の 移る 夢 捧  
海人より 夢 夢の 移る 夢 牡丹  
障子の 世より 移る 夢 牡丹

冬牡丹

桂葉 牡丹  
芦月  
大吟  
玄く  
碧浦  
孔正  
全  
稻馬  
掃花  
西蓮

葱

大少も 人可人 牡丹  
大少や 松より 並ひ 葱 畑  
葱も や 夢 夢の 移る 夢 移れ  
夢 夢の 物の 移る 葱 移れ  
葱 移れ 夢 夢の 中を 通る 夢  
古葱や 夢 夢の 一 白の上  
葱の 夢の 一 白の上 や 小 松 移れ  
ふの上より 夢 夢の 移る 夢 移れ  
生夢あり 夢 夢の 移る 夢 移れ  
移れ 夢 夢の 移る 夢 移れ  
移れ 夢 夢の 移る 夢 移れ

根深

生姜掘

暖鳥

古翠  
雨芽  
桂海  
松常  
陶烟  
古夢  
一甫  
桂海  
松常  
真及



鷹

鷹狩  
鷹野  
冬鳥

ゆきふれとうりつとるに 暖る  
ゆきふれとうりつとるに 暖る  
ゆきふれとうりつとるに 暖る  
ゆきふれとうりつとるに 暖る  
ゆきふれとうりつとるに 暖る  
ゆきふれとうりつとるに 暖る  
ゆきふれとうりつとるに 暖る  
ゆきふれとうりつとるに 暖る  
ゆきふれとうりつとるに 暖る  
ゆきふれとうりつとるに 暖る

五和久  
應く  
古翠  
文鬼  
稻馬  
涼海  
紫如  
五呪  
樵妻  
芦花  
涼谷

王子酒  
納豆

落度子位免に於訓るもの  
市仕仕存その中や玉の  
腕の所気配の所気配  
よ起人のよくめし納豆  
おろの娘まは地まや納豆  
是より一梅子の所や納豆  
白く似ぬ幸子嬌や納豆  
形く似ぬ梅まきく納豆  
省種よのそし納豆  
傳ふの伝ふ承り納豆  
新書の灯のめくや納豆

今  
柳  
素如  
水  
松香  
方石  
節之  
梅美  
吟友  
友々  
素来



揚毛後より中より納豆が

素白

鳴甘く、舌の裏も舌の裏を来一把

氷肌

旅人よ、海客せしむる云、秋分

秋分

今

石河原をゆく、あきや、秋分、

真直

木く、あき、一坂、あき、あき、

今

あき、あき、あき、あき、あき、

吐き

類題十萬句集初編冬之部中終

類題十萬句集初編冬之部下

洞海舎凉谷編

一具菴一具校合

極月  
師走

極月や、一箇のあきも、あき、

三極

あき、あき、あき、あき、あき、

文光

あき、あき、あき、あき、あき、

高き

あき、あき、あき、あき、あき、

高き

あき、あき、あき、あき、あき、

大貴

あき、あき、あき、あき、あき、

高き

あき、あき、あき、あき、あき、

行丸



















駁

聯

寒菊

あゝや、衣、衣、持、を、の、敷  
あゝや、の、上、を、衣、鞋、子、増、せ、を  
針、の、穿、や、お、お、松、風、の、裾、子、を、電  
機、の、子、の、垂、を、又、あ、を、月、お、お、  
衣、を、お、や、衣、を、ぬ、お、の、衣、を、衣、  
衣、を、衣、は、着、中、向、を、や、お、を、衣、  
衣、を、衣、の、指、は、人、指、の、お、ひ、か  
衣、を、衣、や、相、代、を、お、の、め、衣、衣、  
衣、を、衣、や、四、の、解、衣、を、衣、の、衣、  
衣、を、衣、や、衣、を、衣、を、衣、は、衣、衣、  
衣、を、衣、や、衣、を、衣、を、衣、を、衣、

卷八

茅山五嶺  
桂香亭  
雨  
文光  
乘三  
大  
吟  
桂  
贊

寒梅

冬椿

其梅や所を之持て来ぬ者  
 其梅や雪道中へ交り合  
 其梅一ひふくみ小一月  
 咲初一日急より春花をき  
 其梅もさうして六箇ぬき  
 其椿花屋の裏より出るが  
 根所より枝通すや其椿  
 庭に掃いて赤紙片々其つる  
 銅雀の刻と易しや其椿  
 三月咲えらんあまう其椿  
 夢もその情も成や其椿

九  
萬  
兀  
川  
子  
手  
子  
涼  
飲  
其  
臨



冬 蠅

冬の山に日影を照らす  
 影もあらず日影を照らす  
 赤穂の山に日影を照らす  
 飯付の山に日影を照らす  
 網の尾に日影を照らす  
 初ノ山に日影を照らす  
 枯木の山に日影を照らす  
 松の山に日影を照らす  
 冬ノ山に日影を照らす  
 冬ノ山に日影を照らす

南月 一 南  
 今 凍谷 古 翠  
 小 圃 乙 志  
 素 有 夢 有  
 易 有 易 有

冬 山

冬 日

冬 田

節 季 候

冬ノ山に日影を照らす  
 冬ノ山に日影を照らす  
 冬ノ山に日影を照らす  
 冬ノ山に日影を照らす  
 冬ノ山に日影を照らす  
 冬ノ山に日影を照らす  
 冬ノ山に日影を照らす  
 冬ノ山に日影を照らす  
 冬ノ山に日影を照らす  
 冬ノ山に日影を照らす

山 燈 二 丘  
 宇 弘 久 藏  
 山 燈 吟 霞  
 橋 海 橋 翠  
 一 雪 水 燈











年市

つるをとおやきも市力  
舟をよる市もや向河岸  
雪の戸や豆市音のふりあふ  
雪の戸や豆市音のふりあふ  
雪の戸や豆市音のふりあふ  
雪の戸や豆市音のふりあふ  
雪の戸や豆市音のふりあふ  
雪の戸や豆市音のふりあふ  
雪の戸や豆市音のふりあふ  
雪の戸や豆市音のふりあふ

雪笠  
五峯  
笑水  
古翠  
古川  
一甫  
素心  
耕家  
万里  
水界

年忘

年用意

年木樵

年未

来り雪の積るやうに忘  
り忘るのうに忘るに  
将馬鹿の羽織借るに忘  
る雪のうに忘るに  
将馬鹿の羽織借るに忘  
る雪のうに忘るに  
将馬鹿の羽織借るに忘  
る雪のうに忘るに  
将馬鹿の羽織借るに忘  
る雪のうに忘るに  
将馬鹿の羽織借るに忘  
る雪のうに忘るに

布席  
斗筭  
才女  
孝女  
古川  
古川  
古川  
古川  
古川  
古川  
古川  
古川







大晦日

除夜

厄拂  
掛取

岡見

縁人の膝よりきこえ 大晦日  
 縁のふしは隆々や 大晦日  
 廣なるふしとてきこえや 大晦日  
 大晦の年にも入る除夜の鐘  
 耳にけりや 隆々や 大晦の鐘  
 隆々や 除夜の自かや 隆々の鐘  
 人の膝よりきこえ 隆々の鐘  
 隆のふしとてきこえや 厄拂  
 掛るふし軍勢とてきこえ 隆々や  
 うけふふしとてきこえや 隆々や  
 隆の鐘とてきこえや 隆々や

留依

李朗 南 古 元 才 居  
 大 貴 甫 石 葉 蕊 古 陸 頌 老 兀 号  
 一 南 玉 岷

春隣  
春待

春近

年内立春

冬題不知

春の松葉を隣に 春待  
 待春のふしぬは 春待  
 春のふしとてきこえや 春待  
 春のふしとてきこえや 春待  
 春のふしとてきこえや 春待  
 春のふしとてきこえや 春待  
 春のふしとてきこえや 春待  
 春のふしとてきこえや 春待  
 春のふしとてきこえや 春待  
 春のふしとてきこえや 春待

川 丈 横 海 松 常 玄 々 如 蓬 五 竹 素 蕊 確 嶺 桃 塢 竹 岷 東 川



不流  
一鼎  
一器  
素水  
雲心  
一雅  
栗笑  
夕山  
友之

北戸子摺 萬々終て 智の巻  
とよや人 唐る木のまゝ 藤の巻

去節  
之

萬葉集の巻目出づる小春が  
 石白の春あけくゝと雪の入  
 人夢のゆゑに雪やおの雪  
 月ぬいて雪はくゝと大杉の  
 雪の国はくゝと雪の小春  
 春はくゝ集る友やを城の  
 雪を掃の雪はくゝと崔の  
 雪はくゝ風を掃はくゝと木の

其水 今玉 今水 柏今 秀和



枝も先んち枯く其や荊の中  
 既くちくぐり難子や雪解り  
 篠梳も枯くぬ菴や時を雪  
 雪の人もあしち枯松葉が  
 川上の星くつり多し鴨の夢  
 山里も雪の光をくちを飛  
 ちくくや雨の夜風の光れぬ  
 池の上の弓張月や鴨の夢  
 白鞘の刀をくちく老のこ  
 ちくく篠元より小春の光  
 赤楓も紅葉の中や何れも

其水  
 天衣  
 今  
 雪  
 今  
 乙  
 文  
 幸  
 今  
 美  
 石

あられくちくくつり山路が  
 まく掃も枯飯あつ仕るれ  
 情も紅葉あつ来ぬ大海  
 雪の人もあしち枯松葉が  
 川上の星くつり多し鴨の夢  
 山里も雪の光をくちを飛  
 ちくくや雨の夜風の光れぬ  
 池の上の弓張月や鴨の夢  
 白鞘の刀をくちく老のこ  
 ちくく篠元より小春の光  
 赤楓も紅葉の中や何れも

今  
 今  
 今  
 今  
 今  
 今  
 今  
 今  
 今  
 今

雪の人もあしち枯松葉が  
 川上の星くつり多し鴨の夢  
 山里も雪の光をくちを飛  
 ちくくや雨の夜風の光れぬ  
 池の上の弓張月や鴨の夢  
 白鞘の刀をくちく老のこ  
 ちくく篠元より小春の光  
 赤楓も紅葉の中や何れも

今  
 今  
 今  
 今  
 今  
 今  
 今  
 今  
 今







杜贊里竹何年市啓太珉萬居曾見卓  
斗采雨檜半丈李帝素櫟松西陽年  
扇紀暮常礪山白桂荷了春路溪齊父教  
五調東井松什固愁五老桃鳩松井千之  
爭石控國霞城峻久守笑詒歿子宗川扇花  
栢橫以交庚年以吉貞雄真汝美秋臺樂水  
雁臺太輒昨木里屬耕實女為女南々政查女  
文來佳秀青龜青鸞里春玉民水孤吐香  
總

桂丸桐雨梅雪雨花女桂茅女青峨罍錦文廣  
一甫錦哉露什雨汀茶瓶青池荷堂幻芝

名村一笠孤采鬼鄉江月斗囿四明

一總

玄阿寬里

伊巨

杏園

甲斐

蒼谷米牙松海

相模

雉啄洞々

常陸

野巢玄々甫石甫月思文雨夕眉蕉藤

人名



山笑素白昭眉素  
有雅柳柳笑呼友玉葉  
蘭月湖平嘉月松  
月東止杉外古川戴  
清平竹秋甫山石  
龍五竹尚古只衣  
蚤浦谷從中  
杜年一兆一兩五  
風尺山民校  
范父次峰天葉與  
秋菊民雨明三槐  
方居真翠南校

上野

壺半茅丸阿兮雞  
周茶徑葛松鹿太  
器水可布風石  
松雄栗笑揀々田  
齊之厚松月

一野

屋谷道雄素有石  
符積翠下水花甲  
知機

寫蘿嵐齊素考一夢

信濃

八朗易足半山

越後

芝蘭昂洲万里文  
里月下應雨五岫  
孔正赤蓼吏川宗  
兆三桃李朗中桂  
可得蕉古某勝  
文鬼巨童松舍  
古春及兀兮玉  
起父文鵬湖月  
文光乙老左陸  
笑壺羽白二洞  
左來波丈西  
阜蕉丘愚本誼  
老字弘十翁  
可英了々松  
塢真管吳洋  
文齊蓬亭抱  
雲也棠郊里  
月外不延孫  
乙雅秀和柯  
亭



古翠太橋宇高二丘稻刈友之玄子左琴  
崔堂木公丰凉菰民城丈二正令吟霞  
松怨秀橋月甫如旭梅周似光之圭松和  
華深月美文川丈三丁川長旭丘羽人  
如仙秋和起雲乙員御風貝谷石砒  
二了雲山李關山水下材志省吟步稻香  
柏雅水竹志蘭其水玄文螢雨乙蝶蕉素  
文弓子續幸二義峰來六擔月

陸奥

曰人熟巢多妻馬年清女一之城洋利

草井薪水一露夕山汀左木司一竹  
五臺石上竹葉山帆芦月文僊無才業三  
祖卯布席竹岫双之蒼夫揚花鷺閑甫山  
大費二晶江三霞翠蓼雨不曲長彦永國  
雨芳巢平陶烟松栗木水雨明量山如蓬  
不流龍化藤流高山篠山薜母瓶乙東城  
半侶萍水文膏桂裡與人九畦綾流季竹  
双二鳳毛草砒蘭路雨考竹里竹馬五篋  
酒好為女不着一甫月露雨窓一遊  
蘭中大椿東標一陽文起乙疾馬尾







[illegible][illegible]







天保四年  
 五月

天保四年冬正月



